

古代出雲は すごい国！

日本書紀の神代の記述の
ほとんどが出雲を舞台にしている。
(スサノオや大国主の話)



A. HORI 2017

戦後は歴史教育の中から神話は追放されてしまいました。

しかし、現在では「神話の裏側には、何かそれに関係する事実があり、それが物語として記憶された」という考え方が次第に強くなっています。

このような目で見ると、出雲という国は、神話の中に反映されているように、我が国で最も進んだ地域だったことが分ってきた。

今日はそんなお話です。

神話のふるさと：出雲





弥生時代前期の遺跡は堀部第一遺跡で、鹿島町名分にある。後ろは朝日山。2600年前の墓地遺跡である。



中央に長者の墓と呼ばれる大きな古墳があり、その周りに石葺きのお墓が取り囲んでいた。長者の墓の中央はすでに削り取られ、何があったか不明。

おそらくこの地域を開発した有力者の墓があったと考えられる。

こんな大きな中央の墓と、しっかり取り囲む墓群、このような弥生時代前期の遺跡は日本中を見渡しても何処にもない。



残念ながら保存運動もむなしく、削り取られ、温泉と介護施設になってしまった。

遺跡は動かさないが、温泉施設はちょっと動かせば済みます。国際文化観光都市として、きわめて恥ずかしい状況です。

弥生時代中期の代表 田和山遺跡



田和山の どこがすごいの？

No.1 弥生時代唯一のモニュメンタルな遺跡です（イギリスのストーンヘンジのような、時代を代表する記念碑的な遺跡）



弥生時代の遺跡は日本に無数にあります。それは農業をする村や町、そして水田、お墓など、つまり普通の生活の場です。

濠(ほり)で囲まれた村
お米を収穫して一年分の食料を保存するため、守りを厳重にしたのだ。
(奈良、唐古遺跡)



しかし田和山遺跡は全く違う。

三重の壕の中には一軒の高床建物があるだけで、その周りに十数軒ほどの竪穴住居が取り巻いていた。

つまり、三重の環壕は村を守るためのものではなく、頂上にあるたった一軒の高床建物をを守るためのものだった。

この建物は何のために作られたのか？



頂上の九本柱の建物

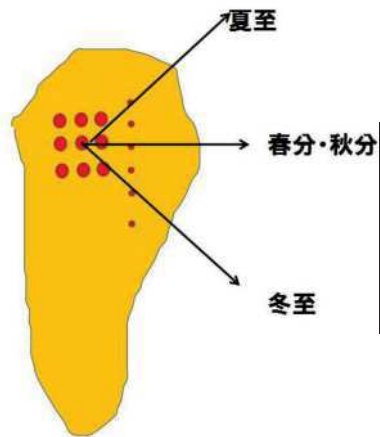
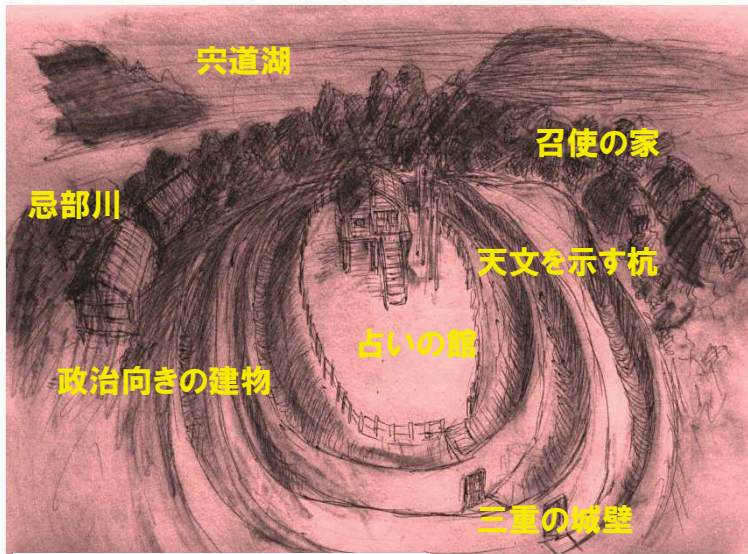
**田和山に似た遺跡は日本には全くない。
考古学ではわからないので、中国の歴史書を見よう。**

**中国の歴史書『魏志倭人伝』に倭の女王卑弥呼のことが書いてある。
ちなみに彼女は日本人で名前が伝えられている最初の人だ！**

倭国は元々男の王が治めていたが、内乱がおこり、長年収まらなかった。そこで各国は一女子を王にえらんだ。

卑弥呼(ひみこ)という名で、呪術(じゅじゅつ)で人を支配した。年長者であったが独身で、弟が政治を補佐した。

千人の召使がいたが、誰も彼女を見たものはなく、男が一人宮殿に食物や水を運んだ。宮殿は嚴重に柵で守られ、兵器を持った護衛が取り囲んでいた。



田和山は天文測量の地でもあった。つまりカレンダーを製作、占いの場であった。



卑弥呼の350年前、田和山にも厳重な柵や濠で守られ、何人もの召使が仕える占い師がいたのだろう。

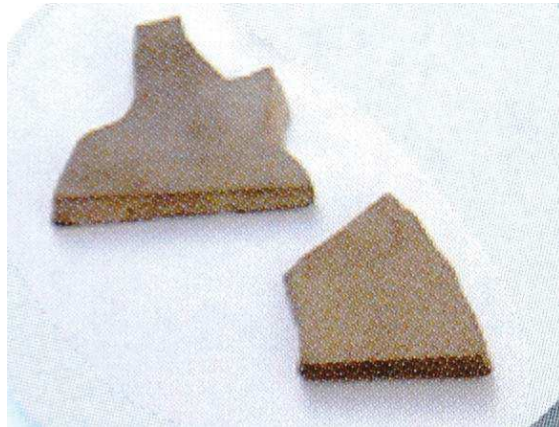
私たちは「マダム田和山」と呼んでいる。





田和山の どこがすごいの？

No.2 日本最古の硯が 出土



これは田和山遺跡で発見された日本最古の石硯の破片で、2100年前のもの。

**日本で文字が使われ始めたのはいつか？
という問題はまだ解決していない。**

古代出雲人は文字を書いたのか？

**交易で鉄も手に入れており、手紙や記録
をつけることができた可能性は高い！**

**後漢の光武帝は57年に
倭王に金印を与えた。**

**金印を与えるというは、
そのハンコをつかって手
紙を書けということで、
文字を書けることが前
提。**



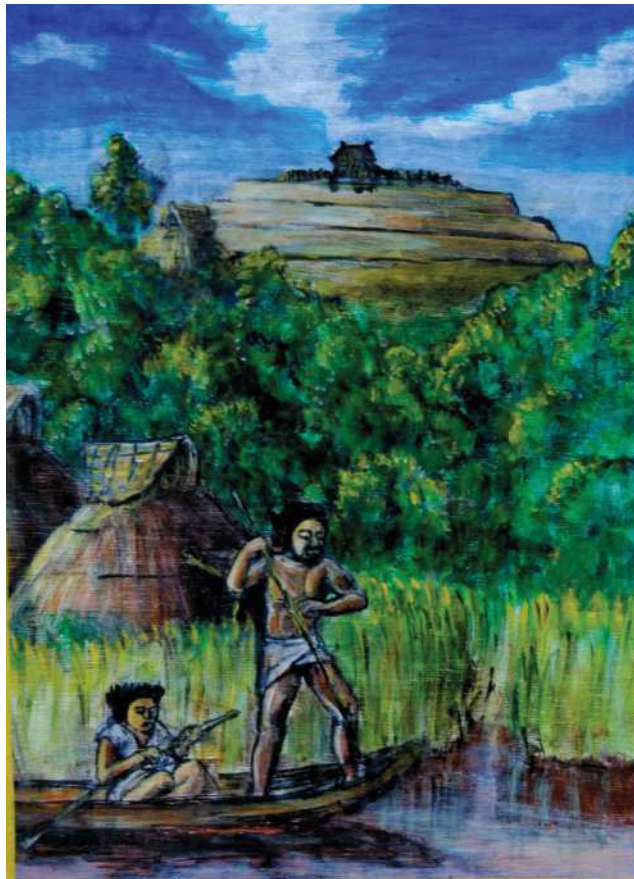
**少なくとも2000年前には日本にも
漢字が書ける人がいたに違いない。**

田和山遺跡での硯の発見は、金印より150年も前に、出雲人が文字を書いていた可能性を示します。

日本最古の書道資料です。



前漢時代の硯箱復元模型



2000年前の田和山の想像図
三重の城壁に守られ、召使たちは漁や農耕にいそんでいた。

田和山以降の出雲



大量の銅剣、銅鐸の発見。
荒神谷遺跡（弥生時代中期末、2000年前）

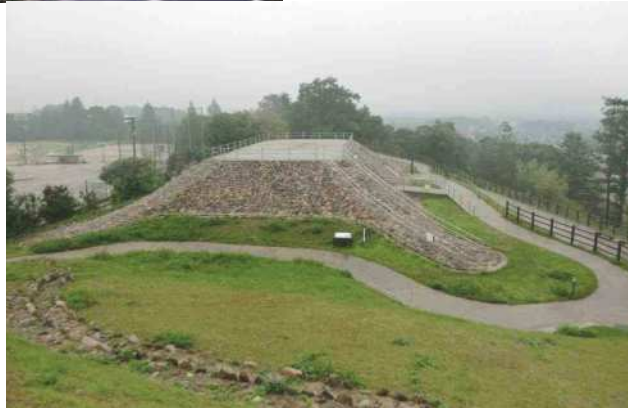


加茂岩倉遺跡



西谷古墳群

巨大な古墳が全国に先駆けて出現



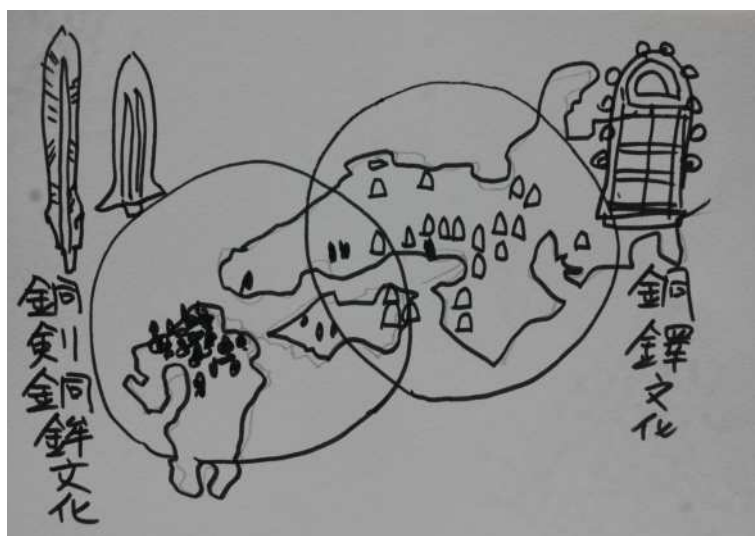
弥生の森博物館と西谷古墳

弥生時代後期 1-2世紀ころ



出雲の王夫妻の墓
板で地下室を作り
朱を撒いて木棺を
収めた。
中国の木郭墓の形
式で、日本で最も
先進的な古墳と墓
の様式である。

私が学生時代には、九州の銅剣文化と近畿の銅鐸文化があり、出雲は中間の何もない貧しい地域とされていた。



何も発見されなかったのは、単に高速道路が造られなかったからに過ぎない（今でも無いけど）。

シカシル行石、加茂石倉遺跡、四日市遺跡の発見によって出雲の先進性が確認された。

出雲が銅鐸と銅剣の文化の中心地で、九州や近畿はその周辺地に過ぎないことが明らかになった。



日本で最初に古墳時代に入ったのは出雲である。



弥生時代を舞台とする日本神話の世界が出雲にあったのは当然のこと！

しかし、出雲国は「大国主の国譲りの神話」に伝えられるように、大和の勢力に屈してしまった。

出雲は神話の中でのみ、巨大なイメージを保ったのです。

